

嵐山の名園「大河内山荘」

JR京都駅で嵯峨野線に乗り換え「嵯峨嵐山」に向かった。駅で降りた乗客の多くが外国人観光客であった。地図を見ながら、野宮神社の方に歩いた。心地よい竹林の道を抜けると、お目当ての大河内山荘にたどりついた。竹林はゼミ旅行でも歩いたことがある。



国指定文化財「大河内山荘庭園」案内から。大河内山荘は百人一首で著名な小倉山の南面に、時代劇の名優大河内傳次郎（1898～1962）が、昭和6年（34歳）から64歳で逝去するまでの、30年の歳月にわたり、消えることのない美を求めて、こつこつと創りあげた庭園でございます。

庭は回遊式借景庭園で、数多くの松、桜、楓などが四季を彩り、大乘閣からは朝な夕な七色に変化する嵐山、霊峰比叡山が仰がれ、徒然草にゆかりの双ヶ丘につらなる古都の風光が見られます。



また茶室、滴水庵を少し登ると保津川の清流が眼下にみえ、これらは大河内が生涯求めてやまなかった禅の境地とでも申しましょうか、皆様にも是非この興趣を楽しんでいただければ、幸甚と存じます。



大河内傳次郎といえば、幼いころ映画好きだったこともあり、時代劇で何回かお目にかかったことがある。その名優が30年かけて創りあげた庭園を散策できて、なんだか感慨深かった。広大な庭園はよく手入れされているようだ。

起伏に富んだ道を歩くと、ウグイスなどのさえずりが聞こえてきた。道のすぐ近くからのさえずりに、しばし耳を傾けた。すこし上っていくと、京都市内と嵐峡を見渡せる展望台に着いた。やはり眺めがよい。朝早くて、ひとりで景色を堪能できた。

お抹茶席で抹茶とお菓子をいただいた。歩き疲れていたこともあり、抹茶を美味しく感じた。ここも外国人観光客が多く、京都の春を楽しんでいるようであった。

(2016年4月20日)